

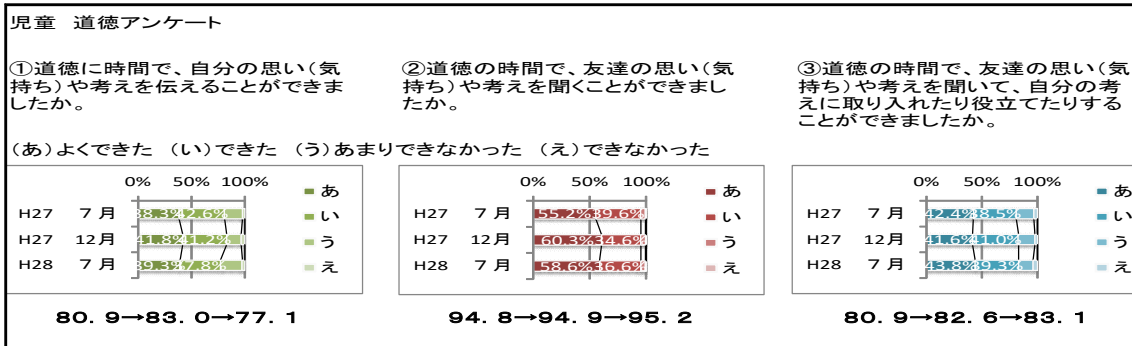
V まとめと今後の課題

本校では、平成 27・28 年度と文部科学省委託事業「道徳教育総合支援事業」について指定を受け「ともによりよく生きようとする児童の育成」を研究主題に、27 年度は「自分の思いや考えを伝え合う道徳の時間の工夫・改善」を副主題として、28 年度は「思いや考えを伝え合い、互いに深め合う道徳の時間の工夫・改善を通して」を副主題として2年間の研究を推進してきた。

児童の実態に基づき設定した重点内容項目を1年次は二つ「2-(2)親切、思いやり」「4-(1)規則の尊重」に絞り焦点化して研究を進めてきた。本年度は、新しい学習指導要領の一部実施や児童の実態を踏まえて2項目追加し、四つの視点から1項目ずつ「A 善悪の判断、自律、自由と責任」「B 親切、思いやり」「C 規則の尊重」「D 生命の尊さ」を重点項目として設定した。そして、道徳教育の要である道徳の時間において自分の思いや考えを伝え合い、互いに深め合う指導の工夫・改善を図ることで「ともによりよく生きようとする児童の育成」を目指した。その結果、以下のような成果と課題が明らかになった。

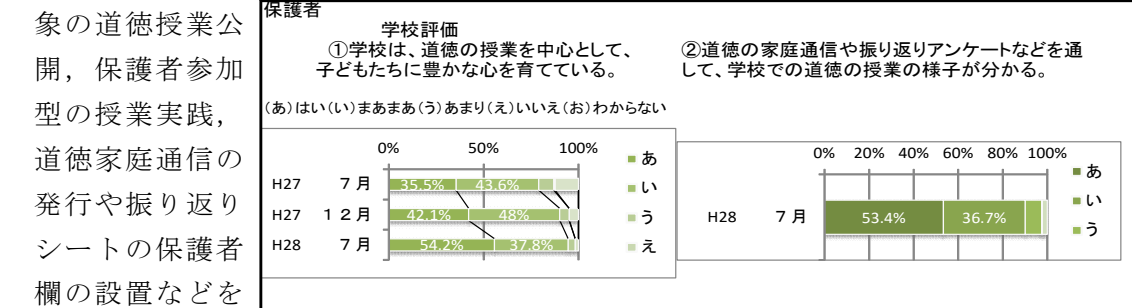
1 成果

- 全職員が、学習指導要領や年間指導計画、別葉などに沿った明確な指導観に基づく略案を作成しての一人2授業の実践、全案を作成しての各学年2授業公開、その後の学年検討会（必要に応じて関係学年会）に取り組み、積み重ねていくことで授業研究を核とした研究を進めることができ、道徳の時間の工夫・改善につなげることができた。特に今年度は、学年部会を主体とすることで、授業構想・模擬授業・授業実践・授業検討会を定期的・継続的・組織的に行うことができ、PDCA サイクルで授業改善や授業検証を行うことができた。
- 学習指導過程を検討し明確にすることで、全職員に「互いに考えを深め合うための工夫」の共有化を図ることができた。また、本校スタイルの学習指導案の検討、中心発問における深めるための補助発問を取り入れることにより、児童が道徳的価値を自分事として捉え、じっくり考え、思いや考えを互いに深め合うことができた。
- 授業づくりの中で作成した「ワークシート・場面絵・掲示物・指導略案教材・板書の写真等」を封筒へ保管し、各学級で順次保管活用後、封筒は各学年の道徳 BOX に保管することで、次年度へ生かすことができるようにした。また、データとしてもサーバーへ保管し、次の授業改善に活用することができた。
- 道徳教育全体計画や別葉を職員室に掲示し「見える化」を図ることで、他の教育活動との関連を図りながら「補充・深化・統合」を意識した、道徳の授業を構想することができた。職員による学校評価アンケート「道徳の別葉や年間計画を意識した道徳教育の実践に努めている」では、「はい」「まあまあ」と答えた職員は100%となっている。
- 児童用道徳アンケート「友達の思いや考えを聞く」「友達の思いや考えを聞いて、自分の考えに取り入れたり役立てたりする」の割合が高くなってきている。このことから、児童は、道徳的価値についての他者の思いや考えをしっかりと聞き、多面的・多角的な考えに触れ合うことで、道徳的価値観を基盤として、自己の生き方についての考えを深めようとしてきていると思われる。



○保護者による学校評価「学校は、道徳の授業を中心として、子どもたちに豊かな心を育てている」において、「はい」「まあまあ」と答えている保護者が増加の傾向にある。

また、「道徳家庭通信や振り返りアンケートなどを通して、学校での道徳授業が分かる」において、90%以上の保護者が同様に答えている。このことから、保護者・地域対象の道徳授業公開、保護者参加型の授業実践、道徳家庭通信の発行や振り返りシートの保護者欄の設置などを



を通して、学校と家庭・地域とが連携して、協働体制で道徳教育を推進してきたことが分かる。

2 課題

○教材や授業展開によって「深める補助発問」が異なるため、今後も多様な「深める補助発問」を検討していく必要がある。

○児童の多様な思いや考えを引き出し、それらをうまくコーディネートするだけでなく、児童が道徳的価値について主体的に考え、互いに交流できる場を意図的に設定することで「考え、議論する道徳授業」を展開し、道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深めていけるような質の高い授業実践に努めていく必要がある。

○児童用道徳アンケートにおいて、年度変わりのところで「自分の思いや考えを伝える」割合が下がっている。これは、児童が「自分の考えを伝え切れていない」と思っているということであり、思いや考えを伝える場や表現方法の工夫・改善をすることで、満足感の得られる授業にしていく必要がある。

○『特別の教科 道徳』の指導方法・評価等の在り方について」（文部科学省 H28.7.22）に基づき、学習状況や道徳性に係る成長の様子を適切かつ継続的に把握し、児童の変容を読み取れる学習評価の方法を今後も検討していく必要がある。

【H28.8.31現在】

主な参考文献

- 小学校学習指導要領解説 「特別の教科 道徳編」（文部科学省 平成27年7月）
- 「道徳授業で大切なこと」「道徳教育で大切なこと」赤堀 博行 著（東洋館出版社）